

水産エコラベルの普及メカニズムに関する進化ゲーム理論的考察 Dolphin Safe ラベルを主として

横浜市立大学大学院国際総合科学研究科博士後期課程

杉林 和亮*

2011年1月

要旨

本稿では、水産エコラベルの普及プロセスについて、消費者側の環境意識や食育、生産者のそれに対応する環境意識、および環境保護団体の存在に着目する。本稿の目的は、日本においてなかなか普及が進まない水産エコラベルの普及プロセスを、消費者の環境意識と政府の普及補助政策が普及プロセスに及ぼす作用に注意しながら、進化ゲーム理論のモデルによって考察する。本稿の理論モデルは、選好進化プロセスを用いて社会規範の形成過程を分析した Francois and Zabojník (2005) のモデルを援用する。また、消費者の環境意識と政府の環境政策に着目し、環境配慮型製品の普及メカニズムを考察した杉林・山田 (2009) の仕組みを参考に、新たに NGO や NPO などの環境保護団体の存在に着目し、理論モデルを構築する。その結果、水産エコラベルが普及する状況、普及しない状況を明らかにし、また、社会の環境意識や環境保護団体の存在が普及プロセスにどのような影響を与えるのかを考察する。

そして、選好進化プロセスを解析する進化ゲーム理論のモデルを用い、環境に配慮する消費者の増加と、水産エコラベル付きの製品の生産の間の相関関係を分析し、以下の3つの命題を得た。

命題1：水産エコラベルの普及プロセスは、その取引が十分に拡大するか、ほとんど行われなくなるかのどちらかである。

命題2：環境に配慮する消費のコスト、あるいは水産エコラベル付きの製品を生産するコストを減少させることで、水産エコラベル付きの製品の取引が十分に拡大する可能性が高まる。

命題3：NGO や NPO などの環境保護団体を、政策的に援助することにより、水産エコラベル付きの製品の取引が十分に拡大する可能性が高まる。

Keyword: 水産エコラベル、進化ゲーム理論、環境意識、環境保護団体

JEL Classification: C73, Q22, Q28

*E-mail: v085162a@yokohama-cu.ac.jp